

金山町町制施行101周年記念企画

かねやま未来図

町制施行100周年を迎え新たな一步を踏み出した金山町。「金山の未来」をテーマに各地区からご寄稿いただきました。この節目の年に金山町の未来の姿を想像し、共に希望に満ちた地域社会を築いていきませんか？



▲入有屋地区公民館

地区役員のなり手がいない

入有屋地区 区長 ^{しばた} 柴田 ^{きよひろ} 清広さん

近年、人口減少の波はどの地域にも押し寄せており、私たちの集落も例外ではありません。現在は、十数人が生まれる一方で100人台が亡くなるという非常に厳しい状況にあります。この流れを止めることは容易ではありません。そうした中で、各地域ではさまざまな工夫を重ね、役職の削減など効率化に向けた取り組みを進めています。しかし、現状のままでは、いずれ行き詰まることは明らかではないでしょうか。私見ではありますが、有屋地区としても抜本的な対策を検討すべき時期に来ていると感じています。例えば、現在ある5つの集落を一つにまとめ、合併するという選択肢も一案ではないでしょうか。出生数が死亡数に遠く及ばない現状では、従来の形を維持するだけでは立ち行かなくなる可能性があります。住みよいまちづくりを目指すことは大切ですが、まずは厳しい現実を直視し、将来を見据えた議論を始めることが必要ではないでしょうか。以上、個人的な意見としてまとめました。

【地区】 22世帯/64名 ※令和8年3月末時点

子どもたちへつないでいく

下向地区 ^{いのうえ} 井上 ^{ますみ} 真澄さん

私は、三地区の人々がこれまで育ててきた「地域の中で子どもを育てる」というあたたかい風土を町全体に広げたいと考えています。例えば、放課後に小さな子どもたちが中高生の部活動を眺めたり、一緒に体を動かしたり、おじいちゃん・おばあちゃん・地域の方とスポーツや金山の郷土食を調理したり、お茶をしながらおしゃべりしたりなど、交流できる場があれば町の文化や伝統が自然と町の人々の優しさと共に受け継がれていくのではないかと考えます。そして様々な世代の方と交流する中で子どもたちの心が豊かに育ち、生きる力となるようにも思います。核家族化や少子化が進み、見えない不安や孤独の中での育児、さらに子どもたちの体験格差が広がっていることも感じます。子どもたちは金山町の未来そのものです。私たちが受け取ってきた町のあたたかさや先人の知恵をそっと手渡し、町全体が明るい未来へつながることを願っています。






▲めぐたま学童クラブで遊ぶ子どもたち

【地区】 26世帯/81名 ※令和8年3月末時点

編集 後記

4月14日、
楯山のライト
アップに向け
たライトの設置作業に参加
しました。20年以上前に植
えられた桜に始まり、紫陽
花や水仙など、四季折々の
花々が楽しめるよう長年手
入れを続けてこられた「楯
山を愛する会」の皆さん。
作業を終え、皆さんとお茶
をいただきながら、お話を
伺いました。町を見守り続
ける楯山は、こうした目には
見えない多くの支えによ
って美しく彩られています。
皆さんの言葉を聞きなが
ら眺めた景色は、いつも
より誇らしく見えました。

金山町の人口は、4,499人 (3月末現在)

	男性	2,239人 (-7)	▼3月の異動 出生 2人 死亡 7人 転入 11人 転出 28人
	女性	2,260人 (-15)	
	世帯数	1,651世帯	